

ドクタードルフインの

# 高次元

# DNAコード



地球上で最もエネルギー能力の高い診療を実現し、  
なおかつ日々進化し続けるドクタードルフインが  
カラダ、ココロ、タマシイの問題にむけて  
高次元DNAを突然変異覚醒させる  
17のシークレットコード  
— 超高次元手術の世界を  
宇宙初公開！

覚醒への突然変異

8.15.11 ドクタードルフイン  
松久正

Tadashi Matshisa



ヒカルランド

ドクタードルフィンは、患者に、

超高次元DNAリニューアル手術。

読者の皆さんは、自分自身に、

超高次元DNAワーク。

どちらも、人間のDNAを突然変異させる。

「DNAビッグバン」です。

ゼロ秒で変われるのです。

プロセスもゴールもなく一瞬で、

無限大の可能性を生むのです。

カバーデザイン 重原 隆  
写真協力 中谷航太郎  
図版イラスト 浅田恵理子  
編集協力 宮田速記  
校正 麦秋アートセンター

本文仮名書体 文麗仮名(キャップス)

Part 1

今はじめて明かされる高次元DNAコード

- II これまでのDNAに「高次元DNAコード」を組み込む！
- 18 患者さんの身体と人生の一級品の問題を診る
- 22 「オープン・ザ・ナデイス」ふあふあ新地球人を養成する診療所での出来事
- 32 ドクタードルフィン診療は病気を持ったまま魂の意識を成長させてあげること
- 40 壱岐で地球と人類の封印を解く
- 44 進化するドクタードルフィン

## Part 2

高次元DNAコードは  
どんなときに、どのように入れるのか!?

- 61 Beingの意識エネルギーはなぜ地球に来たのか
- 66 高次元DNAコードとは何か
- 72 高次元DNAコードが組み込まれる仕組みと方法
- 76 高次元DNAを組み込む操作
- 80 現生の高次元DNAコード

97	古代と超古代の高次元DNAコード
III	地球外の星の高次元DNAコード
122	これからの超高次元手術の世界を切り拓く
132	超高次元手術による突然変異医学完成のヒストリー
139	今後の展望



Part 1

今はじめて明かされる  
高次元DNAコード

これまでのDNAに「高次元DNAコード」を組み込む！



私ドクタードルフィンは、自分しかできないスペシャルな分野として、目に見えない松果体しょうかたいの高次元DNAの書き換えをやっていきます。

私のトップブランドみたいなものですが、今回ご紹介するのは一歩踏み込んだ新しい概念がいねんです。

自分の人生や身体からだのシナリオを書き換えたいと強く思っている人はたくさんいます。

スピリチュアルの分野では、人間はシナリオを持って生まれきたという本がたくさん出ています。それはそのとおりです。

私がこれまでに出版した本でも、人間は生まれるときに、松果体の高次元D

NAに書いてある人生と身体シナリオを全部読んできていると述べています。生まれてきたら、いつ、どこで、何を、どのように体験するか、それを選んできているわけです。

ある程度の筋書き、シナリオはあるのですが、宇宙社会にくらべ、地球社会はエネルギー振動数が低い社会で、人間は身体という細胞を持ってしまっています。

重力を強く受けて、時間軸と空間枠に強く縛られる世界で生きているわけです。

最初、魂意識は、こういうことを体験しよう、その体験からこういうことを気づこう、こういうことを学ぼう、その結果として進化と成長をしようと思われてきたわけですが、地球社会では、なかなかその筋書きどおりにいかない要素が出てくる。

思いがけないいろんな壁があって、いろんなものがきが出てきて、そのものがき

の中で、シナリオを少し変える、場合によっては大きく書き換えることが、今、地球人の進化・成長に最も大事な時代となっているわけです。

もちろん、シナリオを全く書き換えないでも、そのまま地球で、今持っている悩みとか困難をこなしていくことで、最終的にはシナリオどおり生きることが可能なのですが、これだけ思いどおりにいかない地球社会で生きています、もがくことがたくさんあるので、皆さんは、できるだけががらずに効率よく、<sup>たの</sup>楽で楽しい世界を築かたがっています。

そのために、この本のお役目があるわけです。

今までの私の本では、シナリオを生きるのに、世の中でもがいている部分、DNAが絡ま<sup>かち</sup>まっている部分をほどこくことをやってきましたが、もう一歩どころか、二歩も三歩も踏み出して、新しいDNAの一部分を書き込む。

自分宇宙には存在しない高次元の知識・情報を、その人のDNAの鎖の中に組み込んでやるのが最も強力であり、最も変化を生み出すわけです。

この高次元の知識・情報を私は「高次元DNAコード」と名づけました。

高次元DNAコードを組み込んでやることで、シナリオを大きく書き換えることができる世界が築けます。

私が着目するのは目に見えないエネルギー体のDNA！

高次元DNAコードは、どこからやってくるのか。

それは、宇宙の時空間にあるわけです。宇宙の時空間というのは、無数にあるパラレルな宇宙とか、超古代文明までさかのぼった過去の宇宙とか、未来の宇宙とか、地球の中で生み出されるエネルギーとか、地球外の高次元の生命環境において生み出されるものです。

そういったいろんな種類の高次元DNAコードがあるのです。

どうして「高次元」という名前をつけているのか。

一般的に今の地球社会の科学や医学においては、DNAは二重らせんで、しかも、目に見えるものだという常識があります。

それはそのとおりですが、私がうたっている DNA は、目に見えないエネルギー体の DNA です。

それを最も簡潔に高次元として表現するために、12重らせんと言っています。本当は12重らせんしかないというわけではなくて、もっと上のらせんもあるのですが、そこへ行くと人間の観念では理解できなくなってくるので、何とか人間の思考で理解できる世界として、最大で12重らせんとしています。

DNA は2重で、2本で1対ですから、12重ということは6対あるわけですから、第1層が2重らせん、第2層が4重らせん、第3層が6重らせん、第4層が8重らせん、第5層が10重らせん、第6層が12重らせん。1相に1対だから、2本ずつあります。

しかも、2重らせんより上は目に見えないものです。物質性がだんだん消えていきます。2重らせんは完全に物質です。

4重らせんは、物質性がかなり残っているけれども、目に見えないエネルギー

ーが入っている。

6重らせんはさらに物質性が消えて、エネルギー性が高くなる。

12重になるとほとんどエネルギー性です。

高次元DNAとは、目に見えない4重らせんから12重らせんのところを言っています。そこに、あるエネルギーを持ったDNAのコードが組み込まれます。コードというのは、どういうことか。

DNAは2重らせんであって、それが染色<sup>せんしよくたい</sup>体をつくって、染色体の部分で遺伝子ができるわけです。

遺伝子は、ある特定の役割を持ちます。その遺伝子を構成する要素がDNAなのです。

染色体の一部である遺伝子を構成するのがDNAです。

だから、DNAに新しいエネルギーを組み込むことは、つまり、新しい遺伝子を生み出すことです。

新しい遺伝子が生まれれば、DNAからRNAに転写されて、RNAからプロテインが合成される。プロテイン、つまり、たんぱく質が合成されると、それが身体をつくるわけです。さらにはホルモンとか、酵素とか、ビタミンとか、いろんな要素になって身体を働かせる。

ATPというエネルギーもつくるので、身体を元気に働かせることができる。全てそういうふうにつながっていくわけです。

それだけでなく、高次元のDNAの部分、4重らせんから12重らせんの働きがあります。私の著書に出ているので、そこを引用してもいいと思うのですが、2重らせんは身体をつくる情報、4重らせんは身体を働かせる情報、6重らせんは身体を治す情報、8重らせんはそれらを全て総括した身体のシナリオの情報です。

病気を含めて、いつ、どこで、何をどのように体験するか。10重らせんは感情とか性格、能力（勉強能力、スポーツ能力、芸術能力など全ての能力）の情



報、12重らせんは、それを全部含めた人生のシナリオの情報です。

人生のいつ、どこで、何を、どういうふう<sup>に</sup>に体験するか。そういった部分の情報も、新しい高次元のDNAコードが入ることによって、エネルギーが全部書き換えられるので、人生のシナリオも、身体<sup>の</sup>シナリオも変わるとい<sup>う</sup>こと<sup>で</sup>す。

## 患者さんの身体と人生の一級品の問題を診る



私は、鎌倉の診療所における日々の診療で、特別な使命を持っています。

私しかできない最も高次元の診療をやっています。今、私の診療レベル、私という人間の擁<sup>よ</sup>するエネルギー能力は、地球上で最も高いと思います。そのように宇宙生と地球生で、自分を磨いてきました。これが思い込みだとしても、

その自信は今の私には、必要不可欠です。

だから、私以外の誰にもできないことをやっていかないといけないという使命があるわけです。

日々、患者さんは、沖縄も含めて日本の都道府県全てから見えます。プラス、海外です。日本国内では北海道もふえているし、特に九州が多いです。

しかも、まさに一級品の人生と身体の問題を持った人です。本当に難度の高い問題です。

一般的な地球社会と現代医学では対応できない問題を持った人が、非常にたくさん来ます。人生の悩み、困難、身体の症状と病気。身体に関しては、がんが進行して余命何カ月という人。難病で治療法がない、悪くなっていつて死を待つだけと言われている人。

もしくは、原因不明の症状で日々生きていくのがつらい人。あとは、生まれつきの病気で、本当に生まれてこなければよかったと嘆く本人と親。

また、心の病氣、精神の病氣、最近は魂の病氣があります。

魂の病氣は非常に深いのです。

魂の病氣とはどういうものかというと、自分の生きがいがないとか、何のために生まれてきたかわからないとか、自分は生きている価値がないとか、自分は愛されていないとか、そういったものも今は多いわけです。

そういったものに対応するには、私は日々進化成長していかないといけません。普通の医師とか診療科のように、同じレベルでやっていいということではないのです。私の場合は、きのうよりもきょう、きょうよりもあしたのほうがいいです。診療能力が上がっていかねばならない。つまり、進化していかないといけないわけです。だから、患者が継続して来るのです。

患者は、私が診たら、自分の目に見えないエネルギーが既に変わっていることを感じます。

身体はまだ変わるところまでいっていなくても、エネルギーが変わる。もし

くは、心とか人生がまだ変わっていないなくても、それを支配するエネルギーが変わる。

診療を受けた瞬間、ゼロ秒で既に変わっているのですが、自分が自覚するのには個人差があります。すぐ自覚する人もいれば、なかなか時間がかかる人もいます。それは本人の感知度とか進化度によります。

私に高次元DNAコードという概念が生まれたのは、まだ半年前のことです。それまでの高次元DNAの書き換えの定義は、人間が地球に生まれてきたときに持ってきた本来の人生と身体のスナリオにない、この世に誕生してから新しく持った望み、思いを乗せてやるということでしたが、新たに生まれた概念は、それプラス、自分の意識でなく、高次元の集合意識で成り立った高次元のすばらしいエネルギーを組み込んでやる。

集合意識は常識や固定観念のように、悪いものだけではありません。しかし、どちらかという悪いものが多いので、私は集合意識を眠らせると言っていま

すが、集合意識でもすばらしい遺産というか、超古代の叡智えいちエネルギーや、現在進行中の高次元の生命体の星からの叡智エネルギーもあるわけです。

そういった自分の意識でできていないエネルギーを組み込んでやると、本当に奇跡的にDNAのパワーがアップします。

### 「オーブン・ザ・ナデイス」があふあ新地球人を養成する 診療所での出来事



私が日々進化してきた中で、高次元DNAコードを入れるという概念が生まれました。この概念が生まれた瞬間のお話をしましょう。

私は、去年からドクタードルフィン学園という学校の学園長をやっています。今は2期目で、三十数名の学園生、と言っても大人ですが、彼らを私が教育しているわけです。

どういう教育をしているかという点、こうでなくてはいけない、こうならなくてはいけないというガチッた地球人、ガチガチ地球人を、これでいいのだと全て楽で愉しく受け入れて、ふあふあ生きる新地球人につくり直す学校です。

ふあふあ新地球人を養成する学校が、ドクタードルフィン学園です。

その第2期の学生のある女性は、幼少のころから見えないものが全部見えて、感じて、すごく苦しかった。

それを母親に言っても、そんなものは絶対に外に出すなと封印され、本来の自分を全く表現できずに生きてきました。

この女性が私の学園生になって、少しして、診療を受けました。

学園入学後に、タイミングがうまくつながっていたのか、診療所に予約が入っていて、私のところへ来ました。

そのときに、その女性がこう言いました。

「先生、私がここへ来るということを、私が親しくさせてもらっているすごい

超能力者にお話ししたら、その超能力者は先生とお会いしたことはないのですが、先生のことは知っていると言うのです。今度診療に行くと話したら、その超能力者が『先生のところに行く1週間ぐらい前になったら、あなたの身体にある刻印が浮かび上がるでしょう』と言いました」

そのときに、学園生で患者でもある彼女は、何のことかわからなかった。

ところが、ちょうど私のところに来る1週間ぐらい前になったら、急にあざが浮かび上がってきたのです。

それは右手首に指1本ぐらいの太さの線が2本、左手に一つの穴、右の足首に2つの穴の形をしたあざです。

最初の問診のときに、「先生、これは何ですか」と私に見せるのです。

私も最初はわかりませんでした。

そのうちレントゲンを撮って、現像している間に、私にビジョンが浮かんできました。

ジーザス・クライストが十字架にはりつけになっている風景です。

まさに右手首にロープが2本、左手に釘が1本、足首に釘が2本。

ロープと太い釘そのものの跡でした。

私は診療室に入って、レントゲンを見せながら、

「その刻印は、私が思うに、あなたをサポートしているジーザス・クライストのエネルギーが、今この時代にジーザス・クライストを再誕させるために、封印されたジーザス・クライストのエネルギーをこの世に出させるために出てきたんですよ」

と話したのです。

私はいつもの診療のように、最初に身体に触れて、状態を診ました。

次に頭に触れて脳のエネルギーを修正して、最後は頭の上に手をかざして、松果体のDNAのエネルギーを修正しにかかったところ、数秒で彼女の身体がウワーツとなりました。



映画「エクソシスト」のように身体が上下に強烈に動き出して、私がとめていないと、飛んでいきそうな状態でした。

私はジーザス・クライストのビジョンが見えた後だったから、これは何かがおりてきたとわかりました。

彼女は半分意識がないのですが、「ヨシユア！」と叫んだのです。

その後、ヘブライ語で何か言ったのですが、それは私も彼女もわからなかった。

彼女も半覚醒状態はんかくせいだから、自分が「ヨシユア」と言ったのはわかっていました。

彼女が戻ってきて、ほとんど脱力状態で、「先生、ヨシユアって何ですか」と聞いてきました。

私も気になったので、普通はそういうことをしないのですが、その場でネットですら調べたのです。

そうしたら、ヨシユアはジーザス・クライストが生まれたとき、赤ちゃんの名前です。

ヨシユアがおりにてきた。

私が彼女の松果体のポータルを開いたら、アセンデッドマスターになっているジーザス・クライストがおりにてきたわけです。

それがまず1回目でした。

次に2週間後に来て、2回目の診療をしたときに、またウワーツと身体が上下に揺れた。ジーザスがおりにてくるときは、上下にくるのです。

またジーザスが来たなとわかって、今度は「オープン・ザ・ナデイス」と言ったのです。

今度は英語に翻訳して言ってくれたみたいですが、どういう綴りかわからなかった。

結局、NADISだとわかりました。

私が調べたら、NADISは生命エネルギーの通り道だった。

これは医学用語だから、ヘブライ語かラテン語かもしれませぬ。

ジーザス・クライストがバーツとおりてきて、まず「オープン・ザ・ナディス」と言ったわけです。

私がやっていることそのものだったのです。

松果体のポータルが生命の通り道だし、また、私が日々いじっている身体の神経そのものが通り道なのです。そこを開けときました。これはまさにジーザス・クライストのサポートをもらったなとわかりました。刻印を見せてきて、身体も上下にワーツと動いて、最初にヨシユアという名前まで言って、「オープン・ザ・ナディス」です。ジーザス・クライストが、今この時代にそれをやれということですよ。

私は、たぶんジーザス・クライストの再誕、復活をサポートする人間なんだと思います。

だから、今、私自身がジーザス・クライストのパワーを頂戴ちようだいできるのです。ジーザス・クライストがやっていて私を私が再現できるようになる過程なのではないかと思えます。

2週間後、彼女が私の診療所に来ました。3回目です。

私が彼女の松果体のポータルを開いたら、また、案の定、ワーツときた。そのときに彼女は言葉を言わなかったけれども、ワーツと発作がきて、落ちついた後に、

「先生、ちょっとビジョンが見えました」

と言いました。

2重に巻いているもの、DNAのことです。2重らせんというか、12重らせんかもしれない。2重になった6つの対という意味だと思えます。

その対が2重になって、彼女のところにおりてきた。

それから、2重らせんがワーツとほどけた。

DNAからRNAに転写されるでしょう。今度、RNAが出てきた。ほどけたところにちょうど重なるように、1つの文字が出てきた。

そこに「RNA」と字で書かれたというのです。

彼女が「RNAって何ですか」と聞くのです。それは私にはすぐわかることです。DNAからできる遺伝情報鎖で、たんぱく蛋白を作るものになるものです。

そのRNAに上から光の塊、光のコードがおりてきて、RNAにバンと組み込まれて、それがまた逆にDNAに戻って、2つに分かれたDNAが最終的にくつついて2重らせんに戻るといふビジョンを見せられたという話でした。

すごくインパクトのある話で、ヨシユアが「オープン・ザ・ナデイス」と言った後に、ドクタードルフィンに何をやれと言うメッセージそのものでした。

つまり、スペシヤルな光のコードをおろしてきて、それを入れ込めというメッセージでした。

それで私は、今までは個人の意識、目に見えないところにある望みとか思い

を組み込んでいたけれども、それだけでなく、意識とはまた別の世界から、スペシヤルなエネルギーコードを組み込めばいいんだということを、一瞬で、ゼロ秒で気づきました。

ゼロ秒の世界です。

それを言われたときに、アッという感じでした。

異次元、高次元からDNAコードを持ってきて、それを組み込むことをやるんだということを決定した瞬間だったのです。

それから約半年、私はものすごく進化しました。

彼女のあざは、最初の1〜2カ月は変わりませんでした。

まだ私のDNAコードの概念があまり確立していなかったからです。

DNAコードの本を書こうと思ったタイミングとバッチリで、上からのサポートで、この数カ月でDNAコードが完成してきました。

システムが確立してきたら、彼女のあざ、釘の跡がだんだん薄くなりました。

ジーザスのエネルギーはすごいなと思いました。

## ドクタードルフィン の診療は病気を持つたまま 魂の意識を成長させてあげる



いろいろなコードが生まれました。これが生まれる過程にはどういうことがあったのでしょうか。

私の診療所には、世界に類を見ない、ありとあらゆる人間像が来ます。

まさに生まれたての赤ん坊から、亡くなる一歩手前のご高齢の方まで、教科書にある病気のオンパレード、全ての病気のあらゆる症状の方が来ます。

私の診療所は、〇〇しか診ない〇〇科ではなくて、人間科です。

動物も植物も石も診ることができますが、一応体裁上は人間を診ています。

人間の悩み、困難、何でも受け付けます。